

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自らがつくった「私たちの合言葉」、おもしろ、おかしく、元気よく。大きな声で、よく笑い。もっと、今より健康に。利用者、職員、和気あいあい。そっと、変化に、対応す。嬉し、楽しい、桜森荘を共有して実践につなげている。	職員自らがつくった「私たちの合言葉」、おもしろ、おかしく、元気よく。大きな声で、よく笑い。もっと、今より健康に。利用者、職員、和気あいあい。そっと、変化に、対応す。嬉し、楽しい、桜森荘を共有して実践につなげている。	施設を設立した当初「私たちの合言葉」として「おうもりそう」の文字を活かした理念を、職員間で相談して作成し、日々のケアの中に反映されている。	職員間で検討して作成した理念を事業所で働く職員や外部から来所する方にも目につくような場所に掲示して、理念がケアに反映されているかを確認できる事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西丸尾自治会にも参加し、自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加。また西丸尾第1班にも参加し食材等近所店(肉、魚等)と一緒に買い物している。	西丸尾自治会にも参加し、自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加。また西丸尾第1班にも参加し食材等近所店(肉、魚等)と一緒に買い物している。	自治会に加入し回覧板が回って来る。地域の清掃活動や甲州弁ラジオ体操に参加して交流を図っている。祭り際には子供みこしの休憩場になったり、ハロウィンには地域の授産施設の子供達が来所してふれ合いができています。また、相撲取りが来所して近隣住人と交流する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々には、散歩の帰り等コミュニティーカフェを、自由に開放(日中365日)しており、当該施設がどのような仕組みでなされているか、来訪者には認知症の理解や支援の方法等発信している。	近所の方々には、散歩の帰り等コミュニティーカフェを、自由に開放(日中365日)しており、当該施設がどのような仕組みでなされているか、来訪者には認知症の理解や支援の方法等発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族会代表等の意見を取り上げ実現に向けてサービス向上に活かしている(例としては、テレビは存続のテレビ局しか映らないので、地上波全局見たいとの話があり共同ホールのテレビのみCATVを導入)。	利用者代表、家族会代表等の意見を取り上げ実現に向けてサービス向上に活かしている(例としては、テレビは存続のテレビ局しか映らないので、地上波全局見たいとの話があり共同ホールのテレビのみCATVを導入)。	利用者の代表から「入居者の状態が大変よくなっているが、何かケアの工夫がありますか」等の質問には「その人に合った支援をしている事」によりストレスを溜めないよう心がけていること、また、車椅子の利用者が歩けるようになり車椅子の必要がなくなったこと等の報告をしたり、会議のメンバーから受けた意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も逐一変化しているため、このような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を築いている(例:富士吉田市見守りステッカー利用支援事業協賛)。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も逐一変化しているため、このような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を築いている(例:富士吉田市見守りステッカー利用支援事業協賛)。	富士吉田市見守りステッカー利用支援事業に協力している。365日9時～6時迄コミュニティーカフェを開いているのでケアマネジャー等が立ち寄っている。市の担当者には介護度の改善や地域の情報報告や他市からの入居者の暮らし等の情報を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束における禁止の対象となる具体的な行為は、正しく理解されており、玄関の施錠等、言葉の拘束にも注視しながら拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束における禁止の対象となる具体的な行為は、正しく理解されており、玄関の施錠等、言葉の拘束にも注視しながら拘束のないケアに取り組んでいる。		身体拘束委員会を立ち上げ、毎月の職員会議の中で虐待についての事例を挙げて検討や共有をしている。スピーチロックがある時は仲間での都度注意し合う関係が出来ている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修に職員を派遣し、その内容を職員全体会議での研修として行い、事業所内での虐待が見過ごされることのないように注視して、予防に努めている。	高齢者虐待防止研修に職員を派遣し、その内容を職員全体会議での研修として行い、事業所内での虐待が見過ごされることのないように注視して、予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	残念ながら日常生活支援事業や成年後見制度については、そのことのみを中心とした学ぶ機会を持ったことはないが、包括支援センターと社協と協議し1例のみ活用中。	残念ながら日常生活支援事業や成年後見制度については、ある程度話したことはあるが、そのことのみを中心とした学ぶ機会を持ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や気づき箱を玄関先の消毒場に設置し、意見、要望等取り入れ、運営に反映させている。	ご意見箱や気づき箱を玄関先の消毒場に設置し、意見、要望等取り入れ、運営に反映させている。	ご意見箱や気づき箱に入った意見は速やかに検討して支援に活かしている。出された意見の中に、花見、外食などはミーティングで話し合っ検討し反映している。「個人的に新聞を取りたい」等の要望には購入したり、個々の希望に添った支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて、反映させている(例:耳毛が激しい方がおり、ご家族に相談して耳毛剃り機を購入して頂く)。	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて、反映させている(例:耳毛が激しい方がおり、ご家族に相談して耳毛剃り機を購入して頂く)。	月1回の会議の中で出る意見・要望はその都度検討する様にしている。手当の希望、報酬についての意見もある。富士吉田市特有の降雪時、職員がシャベルで除雪していたが要望で除雪機を購入する意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めていると考える。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めていると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人一人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(例としては介護福祉士)。施設内では研修の機会を設けている。	管理者や職員一人一人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(例としては介護福祉士)。施設内では研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流(研修)する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをして頂いている。	同業者と交流(研修)する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをして頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	補聴器の具合がわるいので、修理したいがどの要望があったので、訪問して修理してもらえ補聴器屋を探して修理してもらい、関係づくりに役立つ。	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	落ち着きがなく徘徊することがあり、自宅でも目が離せない状態で、こちらにもいろいろそのことで迷惑をかけるかも。興奮しない環境づくりをまず整えることに努める。	例として紙(ペーパー)関係にかなり執着されている方で、家族がかなり周囲への迷惑になることを心配されているので、いろいろ自己満足できるように、自由にペーパータオル、広告類など持って行ってもらい。落ち着いたところで職員が回収することで、安心してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画段階で、家族の協力が得られたので、検討のみで終わったが、自宅にいろいろ衣類を持ちに出かけたい、美容院に付き添ってほしいなどあり、その当時家族の協力が得られなかったため、市内にある陽だまりの丘(生活支援サービス)に依頼を検討することも考える。	歩行訓練のために在宅リハビリマッサージの活用を望まれていたので、協力病院と話しサービスを実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ある面では、危険な言葉ではあるが、身内として親としての関係づくりに考えている。	ある面では、危険な言葉ではあるが、身内として親としての関係づくりに考えている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会をお願いする共に、面会時は外食、外出等家 族との絆を深めてもらえるように、関係づくりに努め ている。	面会をお願いする共に、面会時は外食、外出等家 族との絆を深めてもらえるように、関係づくりに努め ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係は、実際のところ途切 れていると考えている。今後の課題である。	馴染みの人や場所との関係は、実際のところ途切 れていると考えている。今後の課題である。	入居者の家族の面会は頻繁にある。馴染みの美容院や 妹の協力を得て洋服の直し、化粧品を買いに行く、また 家族と法事にも参加している。家族の方が外国にいて帰 国時の面会、46年ぶりの息子さんとの再会が出来、手 紙の交流で継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	個々の性格もあるので、行き違い(口論・喧嘩等) があるが、その都度職員が間に入り、孤立しないよ うに関係づくりに努めている。	個々の性格もあるので、行き違い(口論・喧嘩等) があるが、その都度職員が間に入り、孤立しないよ うに関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、施設移転した方について は、先方と連絡をとり、必要に応じて助言等行っ ている。永眠された方については関係を怠っている。 今後の課題。	サービスが終了しても、施設移転した方について は、先方と連絡をとり、必要に応じて助言等行っ ている。永眠された方については関係を怠っている。 今後の課題。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常的に会話をする機会が、グループホームは特 養関連に比べかなり多いので、かなり本人の要 望、意向が消聞ける状態であるので、努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に会話をする機会が、グループホームは特 養関連に比べかなり多いので、かなり本人の要 望、意向が消聞ける状態であるので、努めている。 困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉で伝えることが出来る利用者が多いので、本人が 何をしたいのか等職員に伝えることがある。入浴したくない、 外食をしたい、どこかに出掛けたい、広告を見て食 べたい所など出た要望は、希望に添えるように努めてい る。言葉で伝えることが困難な利用者の場合は、自分誌 や家族からの情報を得て支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	1人1人の生活歴、今までの生活歴、生活環境等、 自分史を家族に、そして当然本人にも確認して経 過等把握に努めている。	1人1人の生活歴、今までの生活歴、生活環境等、 自分史を家族に、そして当然本人にも確認して経 過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方、心身状態、有する力の 現状に日夜把握に努めている。	1人1人の一日の過ごし方、心身状態、有する力の 現状に日夜把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について 本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含 める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計 画づくりをしていると考える。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について 本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含 める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計 画づくりをしていると考える。	入所時のアセスメント、自分誌、家族からの要望等を含 めて介護計画を作成し、日々の関わりの中で本人をよく 知る担当職員が気付きや意見を出し合って意見交換、 介護計画モニタリングを繰り返しながら現状に即した介 護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録 (申し送り、業務日誌、システム看護介護記録情報 に記入し、職員間で情報を共有しながら実践、計画 の見直しに活かしている。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録 (申し送り、業務日誌、システム看護介護記録情報 に記入し、職員間で情報を共有しながら実践、計画 の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるとは言えないと考えている。今後の課題である。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいるとは言えないと考えている。1名家族の意向もあり在宅リハビリマッサージを実施されている方がいるが今後の課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源をいろいろ調査してリストづくり段階で、ボランティア等の地域資源を活用するレベルまで行っていない。今後の課題である。	地域資源をいろいろ調査してリストづくり段階で、ボランティア等の地域資源を活用するレベルまで行っていない。今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	納得が得られた主治医と事業所の関係づくりを構築し、適切な医療を受けられるように支援している(協力病院、かかりつけ医、歯科医等)。	納得が得られた主治医と事業所の関係づくりを構築し、適切な医療を受けられるように支援している(協力病院、かかりつけ医、歯科医等)。	本人が希望する係りつけ医受診の4名は家族が受診介助しており、施設からは紙面にて情報を提供し医師からは薬の変更等の返信がある。施設の協力医の往診は週2回火・木曜日にあり診察が行われている。専門医の受診については協力医・家族と相談しながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(管理者)に伝えて相談し、適切な受診、看護を受けられるように連携している。	看護師に伝えて相談し、適切な受診、看護を受けられるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように情報交換、相談に努めており、また連携室と日頃から訪問情報交換等している。	支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように情報交換、相談に努めており、また連携室と日頃から訪問情報交換等している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時の説明は当然であるが、早い段階から本人・家族と話し合い、当該施設で出来る内容を十分に説明して関係者とチームで支援に取り組んだ。	重度化や終末期のあり方について入居時の説明は当然であるが、早い段階から本人・家族と話し合い、当該施設で出来る内容を十分に説明して関係者とチームで支援に取り組むことになると考えている。まだ実践ではない。	状態が変化した時に家族とかかりつけ医で相談し入院となり、再入院等を繰り返したが「老衰」という事でグループホームに戻り5か月後看取りという事例があった。、職員間で共有し研修会を行ない(1)看取りの学び(2)食事、排泄交換(3)急変時の連絡方法等、医師と職員が連携をとり、安心して納得できる最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応の定期的訓練は、実際のところ実施していない。職員には採用時初回研修に研修を行う程度である。当然体調が悪い方には、看護師が退社する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応も実施している。	応急処置や初期対応の定期的訓練は、実際のところ実施していない。職員には採用時初回研修に研修を行う程度である。当然体調が悪い方には、看護師が退社する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず利用者が避難できる方法(避難ルート想定)は確立されているが、地域(近所)との協力体制での避難方法は実践できていない。今後の課題である。	昼夜を問わず利用者が避難できる方法(避難ルート想定)は確立されているが、地域(近所)との協力体制での避難方法は実践できていない。今後の課題である。	年2回の避難(夜間想定消防署立会い、内部訓練)を実施。夜間想定はスロープを利用して入所者と共に外までの誘導、避難ルート3か所ある。足元灯、誘導灯、スプリンクラーの設置がされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応を実践している。ちゃん呼びは絶対しない。	介護者自身がされて嫌と思う言葉かけは使わない様に周知している。高齢の利用者という認識の中で支援している。利用者本人の生活リズムを把握してトイレなどの言葉かけの工夫をしている。希望を聞くようにして同性介護を行なっている。衣類の選択は利用者の希望により決めるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	引き出す言葉を用い、思いや希望を表現したり、自己決定できる環境を整え働きかけている。	引き出す言葉を用い、思いや希望を表現したり、自己決定できる環境を整え働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンは違うものなので、その方にあった生活を提供している(例としては、食事面特に朝食については7時頃定めてい入るが、眠れば、後で朝食をとってもら(但し衛生法で調理後2時間以内)また就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由。	個々の生活パターンは違うものなので、その方にあった生活を提供している(例としては、食事面特に朝食については7時頃定めてい入るが、眠れば、後で朝食をとってもら(但し衛生法で調理後2時間以内)また就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、無精ひげ等身だしなみには常時注視している。化粧する方もいるのでおりやれができるように支援している(化粧品品の補充等)。	整容、無精ひげ等身だしなみには常時注視している。化粧する方もいるのでおりやれができるように支援している(化粧品品の補充等)。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器洗い等職員と一緒に出来る方は実施していた抱いている。また嫌いなもの(納豆等)には代替品を提供している。	盛り付け、配膳、食器洗い等職員と一緒に出来る方は実施していた抱いている。また嫌いなもの(納豆等)には代替品を提供している。	利用者個人の残存能力を引き出して、野菜切り、盛り付け、器拭き、後かたづけ、テーブルを拭く等職員と一緒にやっている。毎週日曜日に手づくり、生ものも提供している。コロッケ、空揚げなどは近所の肉屋さんに行き、イベント時の食事は職員と一緒に作る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス(メニューカロリー計算済業者注文)、水分量をチェックし、一日を通して確保、状態、習慣に応じた支援をしている。(体力の低下傾向の方にはこれまでの習慣を加味してプロテインを飲んで頂いている)	食べる量、栄養バランス(メニューカロリー計算済業者注文)、水分量をチェックし、一日を通して確保、状態、習慣に応じた支援をしている。(便秘の方がこれまでの生活の継続でヨーグルトを食べている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、起床後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れ、臭いが生じないように、起床後、毎食後に一人一人の状態に応じた口腔ケアをしている。歯磨き粉の種類、歯ブラシ、ポリドント等。	口の中の汚れ、臭いが生じないように、起床後、毎食後に一人一人の状態に応じた口腔ケアをしている。歯磨き粉の種類、歯ブラシ、ポリドント等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターン、習慣を把握してトイレでの排泄や失敗を低減し、自立に向けた支援を実践している。	1人1人の排泄パターン、習慣を把握してトイレでの排泄や失敗を低減し、自立に向けた支援を実践している。	排泄子エック表を記入して自立に向けた支援をしている。リハビリパンツ・パットを使用して入居した利用者が布パンツに替えて自立した生活が出来るなど、本人の生活リズムに添った支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、繊維物の取得、軽い運動等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取、繊維物の取得、軽い運動等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はある程度確定しているが、午前、午後等その日に入居者に伺い決めている。日曜日も予備日として希望があれば入浴している。男性スタッフが嫌な方には出来る範囲で女性スタッフが支援している。	曜日はある程度確定しているが、午前、午後等その日に入居者に伺い決めている。日曜日も予備日として希望があれば入浴している。男性スタッフが嫌な方には出来る範囲で女性スタッフが支援している。	週2回入浴しているが時間、曜日は利用者の状態に合わせた支援を行なっている。衣類は極力本人が揃えている。状態で同性介護を行っている。タオル、バスタオルは本人持ちでシャンプー等は本人の物を使っている利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム桜森荘			
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、休憩してもらったり安心して眠れるように支援(アイズノン、水分の提供)。	その時々状況に応じて、休憩してもらったり安心して眠れるように支援(アイズノン、水分の提供)。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用等理解しており、服薬後の支援と症状の変化について注視するように努めている。	薬の目的、副作用等理解しており、服薬後の支援と症状の変化について注視するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(体を動かすこと:仕事)や喜び(美味しいもの等)のある日々を過ごせるように役割(手伝い)、気分転換(散歩等)を支援している。脳トレ等も日課として対応している。	張り合い(体を動かすこと:仕事)や喜び(美味しいもの等)のある日々を過ごせるように役割(手伝い)、気分転換(散歩等)を支援している。脳トレ等も日課として対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、散歩、買い物等、家族と協力して出かけられるように支援している(冬の時期はあまり外出できていないのが現状)。	外食、散歩、買い物等、家族と協力して出かけられるように支援している(冬の時期はあまり外出できていないのが現状)。	日光浴を兼ねてベランダや芝生で富士山を眺めたり、朝、数人が敷地内での散歩をしている。買い物の際、マクドナルドに寄っておやつを食べる事がある。毎日外出したい利用者には車でコースを変えてドライブしたりしている。美容院の職員に墨の石鹸を頼んで取り寄せている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべての入居者ではないが、一部入居者にはバック現金を家族と相談して自己責任で管理して頂いている。	すべての入居者ではないが、一部入居者にはバック現金を家族と相談して自己責任で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	自宅への電話支援、手紙等支援している(年賀状、暑中見舞い等)。	自宅への電話支援、手紙等支援している(年賀状、暑中見舞い等)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体つくっていると考え。息苦しくない。芝生スペースを活用することもある。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体つくっていると考え。息苦しくない。芝生スペースを活用することもある。	広い共有空間の中央には応接ソファーが置かれていて豪華な雰囲気になっている。フロアの床は柔らかくクッション性のある床材が使用されていて断熱材二重構造でヒートショックがないような造りになっている。大きい緑の鉢物、大型加湿器、生花、マッサージ器、玄関入口脇のコミュニティホールのテーブル椅子は形が工夫されている。各ユニットからスロープが庭に続き、出入りが自由にできる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティーカフェの活用など工夫している。気の合う利用者のところへ訪室する場面もある。	コミュニティーカフェの活用等工夫している。気の合う利用者のところへ訪室する場面もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り家族には、今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫している。またテレビ等みの方はテレビを持ち込んで頂いている。	出来る限り家族には、今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫している。またテレビ・炬燵等みの方はテレビを持ち込んで頂いている。	利用者の好みの物品、花や人形、家族の写真、仏壇、テレビ、家から持ってきた暖房用ポータブルトイレなど、それぞれの利用者の馴染みの物が置かれていて、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように整えていると考えている。広い空間、手すり等。	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように整えていると考えている。広い空間、手すり等。		